



留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	日本円	備考
授業料	0	0円	協定留学であるため免除
宿舍費	4050	566,800円	月450ドル程
食費	1000	140,000円	
図書費	400	55,400円	教科書代(授業によって大きく異なります)
学用品費	20	2800円	
携帯・インターネット費	495	70,000円	Sim カード(アメスマ)月55ドル
現地交通費	0	0円	学生 ID 使用で無料バス利用が可能 ( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	10850	150,000円	旅行等
被服費	600	84,000円	
医療費	0	0円	
保険費	2145	300,000円	形態: 明治大学指定海外旅行保険、協定校指定保険
渡航旅費	1800	252,000円	
ビザ申請費	365	51,000円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	21,725	3022,000円	

渡航関連	
<b>渡航経路</b>	
往路 出発地: 羽田空港	目的地: セントルイス空港 経由地: デトロイト
復路 出発地: セントルイス空港	目的地: 羽田空港 経由地: ロサンゼルス
<b>渡航費用</b>	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: Delta Airlines 料金: 150,080 復路 航空会社: Frontier Airlines+Delta Airlines 料金: 120,080	∴合計: 270,160
<b>航空券購入方法</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: Skyscanner)	
<input type="checkbox"/> インターネット(サイト名: )	
<input type="checkbox"/> その他( )	

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

 学生寮(寮の名前: )  アパート  ホームステイ

2)部屋の形態

 個室  相部屋(同居人数 )

3)共有部分

 バス  トイレ  キッチン( 自炊可  自炊不可)

4)住居を探した方法:

留学先大学のアドバイザーが住居を指定したため、個人で住居を探していません。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

個室であるため個人の時間を大切にできることに加え、インターナショナルの生徒が集まった住居であるため国際的な交流も盛んに行い、楽しむことができるため留学生におすすめです。

## 現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

 なし  
 あり(治療を受けた場所: )2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。  
(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等) なし  
 あり(問題の内容や相談した人等: )

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

事前に危険地域に関する情報収集をインターネットやアパートに住んでいる友達にアドバイスをもらう等して対策を行いました。実際に身の危険を感じた場合は、目線を合わせない、その場から離れるようにするという意識を行動しました。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

基本的に接続等の問題はなく利用することができていました。しかし時々、場所によって接続が悪くアプリやインターネットを利用できないということがありました。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で Banterra という銀行の口座を開設し、日本から親に送金してもらいました。口座開設は現地大学の生徒証とパスポート、電話番号を用いて行いました。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

医薬・医療品は使い慣れているものを、日本から持っていくべきだと思います。また、米や調味料等の日本食を自炊の場合は出来る限り持っていくと便利です。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
English Composition 1	
科目設置学部・研究科	English
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Christivel Zulu
授業内容	合計5つのライティングを一学期内で取り組む。そのライティング内容に関する説明、それに関連したアクティビティ、ミニクイズ、ペアワーク、リフレクションを行った。
試験・課題など	ライティングの原稿準備、書き直しの課題、リーディングが主に課されていました。期末はテーマにそっての制限時間内に行うライティングとグループで授業の振り返りをまとめるという内容の試験でした。
感想を自由記入	様々なタイプのライティングのすすめ方や基礎を身に付けることができる、非常に分かりやすく役立つ内容。フレンドリーな先生でカジュアルな会話やミニゲームも授業内でするなど雰囲気の良いクラスだった。



履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Working Internationally			
科目設置学部・研究科	International studies		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Emi Kanemoto		
授業内容	ビジネスにおける国際的な関係性の構築や人種や文化によって異なる特徴や考え方について教科書をもとに学習した。毎授業でディスカッションやその他のグループワークの時間が与えられる。		
試験・課題など	約一週間に一回ミニクイズがあり、その準備やチャプターごとのレーディングが課題として出された。中間試験と期末試験では、教科書使用可能なウェブテストを教室で受講した。		
感想を自由記入	毎授業で色々なクラスメイトと話す機会が与えられたため、友達も作れる環境だった。日本人の先生ということもあり、親身になって対応してくださり非常に参加しやすかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Careers in Fashion			
科目設置学部・研究科	Fashion Studies		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Siwon Cho		
授業内容	ファッション業界の基礎を学ぶ内容。ファッションに携わる各職業の主な作業や役割、重要事項について理解を深める。		
試験・課題など	学期を通して合計5つの試験と全4回のファッション関連記事のレポート発表の課題が出された。それらに加えて、実践問題やレポートといった不規則の課題があった。		
感想を自由記入	授業がレクチャー形式で他生徒との交流は難しいと感じたが、先生生徒ともに優しく、ファッションを好きな人たちが集まっている授業だった。課題も多すぎず、定期的な試験があるためその都度確認しながら学習を進められた。英語での交流でなく、専門的な知識習得に適した授業であると言える。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Textiles 1			
科目設置学部・研究科	Fashion Studies		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Siwon Cho		
授業内容	繊維や生地に関する特徴や必要知識について学ぶ内容。ファッション業界に関する各生徒のレポートを通して最新の業界状況についても理解を深められる。		
試験・課題など	学期を通して全5回の試験と4回のファッション業界生地のレポート発表がある。その他成績サポートのための追加課題が不定期に出される。		
感想を自由記入	レクチャー形式で他生徒との交流は少なかったが、テキスタイルに関する専門的な内容を学ぶことができ、興味がある人にとっては非常に役立つ授業であると感じた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Communication across culture		異文化間コミュニケーション	
科目設置学部・研究科	Communication Studies		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Scott Jarmon		
授業内容	文化、国籍等の境界を通してのコミュニケーションに関する、歴史背景や特徴、効果的な方法について学ぶ。		
試験・課題など	中間試験と期末試験がある。チャプターごとに要約やキーワード、ディスカッションをまとめたレポートの提出が課される。学期を通して3週分、映画を観る時間がある。		
感想を自由記入	異文化間交流のために理解すべき点について、具体的な例とともに学習することができた。週に一回授業の始めに他生徒とディスカッションする時間があり、理解を深める上でも、交流においても良い機会だった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Communication & Pop culture		コミュニケーション&ポップカルチャー	
科目設置学部・研究科	Communication Studies		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Dustin Greenwalt		
授業内容	ポップカルチャーにおけるコミュニケーションの役割や社会的影響について学ぶ。主にアメリカのポップカルチャーを題材としているが、後半では K-Pop やその他国際的な文化材についても取り扱われ、世界におけるポップカルチャーの影響力について理解を深める。		
試験・課題など	三回程のプレゼンテーション(個人とグループ含む)とファンカルチャーに関するレポート二回、10 ページ以上のファイナルペーパーの課題が出される。また、毎授業で 13~17 ページ程のリーディングとそれに関連した質問への準備を事前に行っておく必要がある。		
感想を自由記入	個人的にはアメリカの映画や音楽、テレビ番組についての知識が十分なかったため、具体例を聞いても理解が難しいと感じる場面がいくつもあった。その中でも2回ほど映画を実際に観て、意図されているメッセージや特徴に関して考え、理解を深められる機会があり、良かった。洋画や洋楽が好きな人にはお勧めできる授業であると思う。ただし、課題やプレゼンテーションの量が多く、準備に負担がかかると感じた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Textiles 2			
科目設置学部・研究科	Fashion Studies		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Siwon Cho		
授業内容	繊維や生地に関する知識を身に付けられる専門的な内容。Textiles 1 という授業の応用となっている。		
試験・課題など	学期を通して全5回の試験と4回のファッション業界記事のレポート発表がある。また、織物や糸に関する簡単な実践課題も不定期で課された。		
感想を自由記入	内容は専門的で、覚えなければならない内容や単語が多く、大変でしたが、非常にためになる授業だった。実践課題や動画、テキスタイルのサンプルとともに学びを深められ、分かりやすい授業だと感じた。		



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Fashion Product Analysis	
科目設置学部・研究科	Fashion Studies
履修期間	春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	リアルタイムオンライン(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に40分が2回
担当教授	Bobette Stott
授業内容	ファッション業界において意識すべき、理解すべき過程について理解を深めることができる実践的な内容。製造や販売に留まらず、生地や色など衣料品の細かい特徴や種類についても学ぶ。
試験・課題など	毎授業で教科書を事前に読んでくことと、不定期に出される実践的なレポート課題がある。また、中間試験と期末試験、ファイナルプレゼンテーションがある。
感想を自由記入	この授業は全体を通して非常に実践的で、特にファイナルプレゼンテーションは具体的なブランドをもとに自分で分析し、シーズンに沿った提案をするという実践的なラインプランを考える必要があり、大変だった。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。 アパートに幅広い年代の方がいた影響もあり、就職活動で日本の企業に就くという考えに加えて、海外で働くことや自分の中での選択肢や可能性が広がった。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例：語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	TOEIC 受験
	4月～7月	
	8月～9月	TOEFL 受験
	10月～12月	選考結果発表
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	航空券購入、履修登録、留学生オンライン Zoom
	8月～9月	留学開始、予防接種
	10月～12月	中間試験、Thanksgiving 休暇、期末試験、冬休み
留学/帰国年	1月～3月	冬休み、春学期開始、中間試験、春休み
	4月～7月	期末試験、帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

サザンイリノイ大学は田舎の大学で周りに何もなかったため学習に集中できる環境です。周りの人々もやさしく、穏やかな性格の人が多く、大学内でのイベントやフリーフード等の配布も充実しています。私は勉学と英語力向上に集中できる環境と、多国籍の人々が集まるアメリカの大学であるということ、様々な授業科目があることを魅力に感じ、留学先として選びました。実際に勉強する時間を確保でき、国際的な交流も盛んで、貴重な体験を沢山することができました。田舎に住む分、休暇期間での旅行に時間やお金を費やすことができ、そこでも楽しく充実した時間を過ごすことができました。その一方で、交通手段が十分でないため、空港までの移動が困難です。車を持っている友人を見つけないと、時間帯が好ましくないバスや電車しか手段がありません。そのため田舎での生活を楽しめる人、勉強に集中したい人にはお勧めの環境であると思います。インターネット環境に関しては特に問題はなく、Wifi も使えます。定期的な買い物に関しては、大型スーパーのネットサブスクリプションを友人とシェアして利用していました。インターナショナルスーパーもあるので、日本食の調達も基本的には可能です。

個人的には学期間は勉強や友人との時間、自然での遊びを満喫し、休暇期間の旅行でお金を費やし、バランスも良く楽しめたと思っています。しかし、ここで留学するにあたり、自分の中で主に達成したいと考える軸をしっかりと持っていることは何よりも重要であると思います。また、自分の目標を明確にし、学習に辛抱強く集中できることが大切です。ここでしかできない田舎での貴重な経験ができると思います。